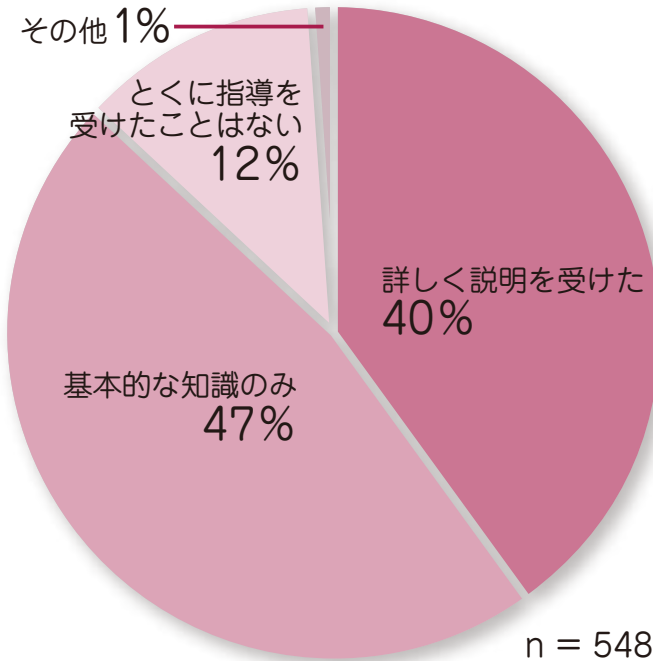


Q. 「低血糖」に対する知識や対処法について、 主治医や医療スタッフから指導を受けたことはありますか？

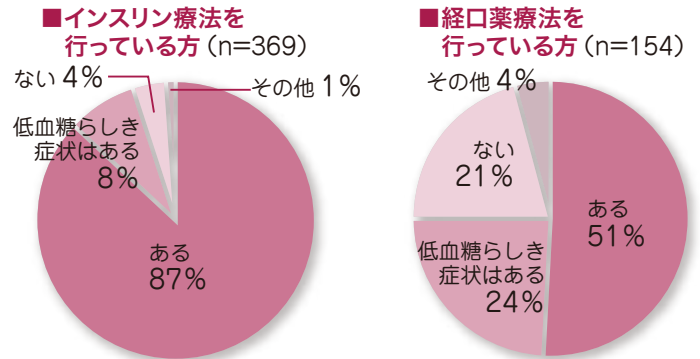


4割の方が「詳しく説明を受けた」、約5割が「基本的な知識のみ」と答えました。低血糖の経験としては、インスリン療法の方は9割、経口薬療法の方は半数が「経験あり」で、“低血糖らしき症状”の方も合わせると、回答者の多くが経験されていたりしました。また、インスリン療法を行っている方の3人に2人は、SMBGを行ったら低血糖とみられる数値であったにもかかわらず、自覚症状を感じなかった経験があるとのことでした。

Q. 低血糖を経験された方に伺います。 どのような時に「低血糖」が 起こることが多いですか？ (複数回答可 n=439)

- いつもより身体を動かし過ぎた時 …… 60%
- 食事が少なかった時 …… 55%
- 食事の間隔を空け過ぎた時 …… 36%
- 薬剤の調節を間違えた時 …… 22%
- 補食や間食を摂らなかった時 …… 13%
- インスリン注射した直後の運動 …… 8%
- シックデイの時 …… 8%
- アルコールを飲み過ぎた時 …… 7%
- その他 …… 13%

Q. あなたは「低血糖」を経験したことがありますか？



は、厳しい現状が浮かびあがりました。

自由記述では、‘実際の値と自覚症状とは違うことが多い’‘指導を受けようにも微妙な心身の状況を伝えるのは困難だし、主治医も一般的な対処法を教えるだけ。低血糖は医師、看護師に頼らず自己管理するしかない’‘低血糖は絶対に避けるべきものではなく、良好なコントロールを維持しようとすれば不可避。恐怖や不安を煽るのではなく、現実を見据えた実践的な指導を切に希望’等々、沢山の悩みやご意見を頂戴しました。

●コメンテーター●

鈴木吉彦 (日本医科大学客員教授、HDCアトラスクリニック院長)

インスリン治療例やSU薬使用例に対する低血糖指導をしていない医師が3割近くいる事は、このアンケートで驚いた点です。患者さん自身が勉強し対応していることで助かっているようです。インクレチン製剤登場後、インスリン注射は脇役になり主役交代となっていくことは明らかですが、DPP-4阻害剤でもGLP-1受容体作動薬でも、SU併用例での導入時の低血糖指導は必須です。HbA1c 5%台でのコントロールが普通と言える時代が来ているのに、低血糖指導を行わない医師が高頻度にいるのでは、実臨床でHbA1c 5%台の患者が増えるのには、まだまだ歳月を要する事でしょう。

Q. 低血糖を経験された方に伺います。 「低血糖」を主治医や 医療スタッフに報告していま すか？ (n=439)

